



ユネスコ世界記憶遺産登録資料
「白樺日誌」の保存修復に向けた
調査を報道関係者の皆様へ公開し
ます

**取材日時：令和5年10月4日(水)
14時30分から**

◆舞鶴引揚記念館の成り立ちと収蔵資料

戦後40年(昭和60年)に、舞鶴で開催された「引揚港舞鶴を偲ぶ全国の集い」を契機に、体験者から記念館建設を熱望され開館。市内や全国から7400万円の寄付と資料が寄せられました。平和の発信拠点として、今年35年目を迎えています。



開館日

昭和63年4月23日 ※今年35周年

収蔵資料

- ・開館時は2400点。
- ・現在は約1万6千点
- ・今でも問い合わせは年間約100件

入館者数ほか

- ・開館以来の入館者のべ数は、
446万6413人(令和5年8月末現在)
- ・平成24年4月から運営を
市の直営化に

◆経緯 1 ー平成27年ユネスコ世界記憶遺産(世界の記憶)への登録

平成24年7月に市が所蔵する引き揚げ関連資料をユネスコ世界記憶遺産(世界の記憶)への申請を表明。国内選考を経て、ユネスコに正式申請。平成27年10月10日に日本4例目として登録されました。

登録名

「舞鶴への生還 1945ー1956シベリア抑留等日本人の本国への引き揚げの記録」

登録資料

白樺日誌、俘虜用郵便はがき、手作りのメモ帳、引き揚げ証明書、収容所で描かれたスケッチブックなど570点

世界の記憶の状況

世界的に重要な記録遺産を保全し、広く公開することを目的とする。アンネフランクの日記やベートーベンの手書きの楽譜など496件(内、日本は7件)が登録されている(令和5年6月現在)

◆経緯 2 —登録資料の活用と保存

世界記憶遺産登録資料を収蔵する市の使命として、引揚記念館事業を中心に「活用と保存」に真摯に取り組んでいます。

活用

平成28年から旧引揚港での全国巡回展やレプリカの制作、有識者による資料調査などを実施（文化庁補助金等の活用）

保存処理

登録資料を中心に、平成28年から劣化などの状態調査に基づき、**緊急性の高いものから、補強や修復処理を施している**

環境管理

国立民族学博物館(吹田市)の園田直子教授の助言指導を受け、展示室、収蔵庫の毎日の温湿度の計測のほか防虫、季節や天候に応じた環境管理を職員が日常的に行っている

◆白樺日誌の保存のために一状態管理から保存処理の研究へ

白樺日誌は、現状では唯一無二の存在であり、その特異性から他の紙資料等と違い保存修復方法が確立されていないため、積極的な保存処理は行わず、まずは基礎的な状態調査を実施してきました。今年度から保存処理に向けた研究に着手します。

平成29年、令和2年に劣化状態を調査

樹皮には水分がありしなやかさが残っており、危機的な状況にはない

令和5年度から 保存処理方法の研究をスタート

保存処理の実施

◆白樺日誌の保存修復手法の研究開始—舞鶴市×元興寺文化財研究所

今後の状態の変化に備え、保存修復の手法にかかる研究を国内有数の保存修復の専門部門を持つ元興寺文化財研究所(奈良県)と連携し開始していきます。今後、調査や実験などを繰り返し進めていきます。

引揚記念館での実施日

令和5年10月4日(水)14時30分から 舞鶴引揚記念館

内容

14時30分

引揚記念館学芸員による白樺日誌の説明
元興寺研究所研究員による調査内容の説明

15時ごろ

展示ケースより白樺日誌の運び出し
元興寺文化財研究所研究員による調査風景

取材にあたって お願い

フラッシュでの撮影はご遠慮ください
筆記具は鉛筆・シャーペンをご使用ください

◆未来への継承にご協力をお願いします

恒久平和を希求するまちとして、

- ・世界的に重要な資料の保存・展示
- ・史実の語り継ぎ
- ・理解関心を深める教育普及やイベントの開催

に一層取り組んでいきます



問い合わせ先

事業名	担当課	担当者	電話番号	FAX番号	メールアドレス
白樺日誌の修復研究～未来への継承事業について	舞鶴引揚記念館	長嶺 山下	68-0836	68-0370	hikiage@ city.maizuru.lg.jp